

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報  
 2024年 秋号 10月9日(水)発行 通巻95号  
 発行人 浅田多津子(府中市美好町)  
 TEL 090-8806-8165  
 編集人 葛西 利武  
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

—夏休み特別企画—

西府崖線「水と緑の回廊」で、大自然の悠久な営みを学ぼう！

夏の「魚・昆虫いきものたんけん隊」に参加して

東京農工大学農学部 地域生態システム学科／福田信二教授

1. 「自然観察たんけん隊(魚の部)」に参加して

7月27日(土)9:00～11:45に開催された観察会に参加し、とても楽しい時間を過ごすことができました。猛暑にもかかわらず、参加して下さった市民の皆様、そして安全に配慮して実施して下さったスタッフの皆様にご心から感謝申し上げます。

今回の観察会では、一見、住宅地を流れる単調な水路で魚を観察しましたが、水田に接続する水路の流入地点や環境配慮施設の効果も相まって、多くの魚が泳いでいる様子が見られました。実際に水路に入ってみると、大きな礫や堆積物があり、これらが魚類にとって良好な生息場となっていることを実感できました(㊦写真)。

猛暑の影響で観察時間は短くなりましたが、振り返りの時間もあり、水生生物や昆虫と触れ合う貴重な機会となりました。炎天下での活動を終えると、今度は冷房がきいた西府文化センター3階講堂での観察会です。魚と昆虫についての講話が始まると、皆さん冷たいものを口にしてホッとしたような表情でした。

このような観察会を通じて、地域の自然や生態系、そしてそこで育まれる農業への理解がさらに深まることに期待しています。



㊥水路に入って魚をさがす参加者  
 福田先生は左側2人目の空色シャツ  
 ㊦定置網を仕掛けて水路の遊泳魚を採捕

も選定されています。周辺には水田や果樹園が点在し、住宅地を流れていることも特徴の一つです。道路と隣接していることもあり、ほとんどコンクリート護岸ですが、一部では土水路も残存しています。府中用水は、5月から9月にかけて通水されます。灌漑が終わると水がなくなりますが、矢川や崖線からの湧水によって、通年で水が流れる区間も存在します。

私たちの研究室が2015年から2020年に行った調査では、府中用水で26種の淡水魚が確認され、希少な水生植物の存在も報告されています。複雑な水路網に形成される多様な流れは、成魚だけでなく稚魚の生息にも適した環境を提供しています。また、水田との接続性が良好な区間では、魚類が水田に移入しやすく、産卵場や生育場としての機能も保持されています。



水田からの流出口と、礫や堆積物が見える箇所

2. 府中用水と魚類相

府中用水は江戸時代初期に開削され、多摩川から取水し、国立市から府中市まで流れる用水路で、疎水百選に



一方で、多くの外来種も観察されており、在来種との競合が懸念されますが、具体的な対策の容易ではありません。また、近年、矢川の瀬切れに代表されるように、湧水の減少が問題になっており、定期的なモニタリングと実効的な対策が求められています。

### 3. 農業と水資源と生態系

農業は、単に食料生産を支えるだけでなく、地域の景観や生態系の維持にも欠かせない役割を果たしています。農業用水は、農業生産のみならず、水源涵養や生物多様性の維持といった生態系サービスの向上にも重要な役割を果たしており、その多面的な機能は国際的にも注目されています。特に、小河川や農業水路から成る水域ネットワークは、魚類などの生物にとって重要な生息環境を提供しています。

一方で、都市化や外来種問題により在来生物の生息地が急速に失われていることに加え、農業者の高齢化や農業離れによって担い手不足になり、維持管理の負担が増していることが課題になっています。これを解決するためには、地域住民の理解と協力が不可欠だと考えます。

農業水路やその周辺環境は、環境教育の場としても極めて重要です。例えば、今回の観察会のように、水辺の自然環境や生物多様性を間近で観察することで、地域住民や子どもたちは、自然との触れ合いを通じて、環境保全や持続可能な農業の重要性を学ぶ貴重な機会を得られます。

こうした体験は、地域全体での環境保全意識を高め、将来的には環境保全と農業活動が両立する地域社会の構築に貢献します。特に、農業水路の維持管理は、農家の皆様の多大な労力によって支えられていますが、水路が適切に管理されれば、水質悪化などの問題が軽減されるとともに、水生生物の生息環境が改善され、親水機能が高まります。そのため、地域で水路の清掃や維持活動に協力することで、地域環境の保全や地域コミュニティ全体の強化が期待されます。

#### ☆農業・水資源・生態系の調和が重要／農業と自然環境がWin-Winの関係を！

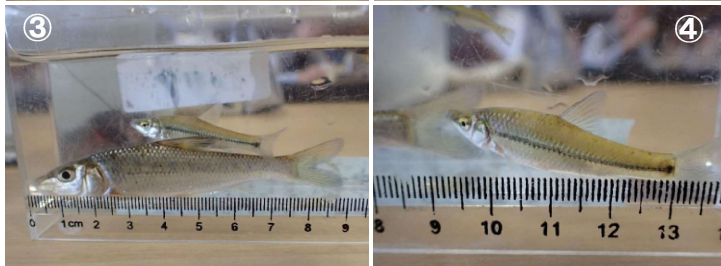
私は、持続可能な農業の実現に向けて、農業－水資源－生態系の調和を図る取り組みが今後ますます重要になると考えています。農業従事者や地域住民、行政や教育機関が連携して、農業生産の持続性や生態系保全、水害などを意識した水資源管理や環境保全等に取り組むことで、豊かな自然や文化を後世に伝えることができます。

このように、地域の大切な資源である農業水路や農地の保全のための協力体制を強化し、農業活動と自然環境がWin-Winの関係を構築することが今後の課題として挙げられます。そのためには、地域社会全体が地域の農業や環境に対する理解を深め、農業生産と環境保全の両面から地域の持続可能な発展を支えるための協力体制を構築することが重要です。また、若い世代が農業や環境保全に関心を持ち、積極的に関わる機会を提供することで、次世代にわたって持続可能な社会の基盤を築いていくことが期待されます。

未来の世代にも豊かな自然と農業の恩恵を伝えるため、私たち一人ひとりが果たすべき役割を意識することが大切だと思います。私自身も、微力ながら貢献できるように、研究と教育を通じて、これからも取り組んで参ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



西府文化センター講堂での観察会。中央の空色シャツは福田先生。左は山崎雄翔さん、厚東七海さん。左端は昆虫研究会の原田彪吾さん



<採捕した魚の展示>  
 ①オイカワ12cm ②コイ8cm  
 ③ニゴイ9cm ④モツゴ5cm  
 ⑤アメリカザリガニ。そのほかメダカ、ドジョウ、ヌマエビ、カワナ、アメンボ、ヤゴ2種など  
 ①から④の写真撮影は東京農工大学昆虫研究会の小池尊琉(コイケノ)さん

### 編集部からのお知らせ

今回の「夏休み特別企画(魚の部)」は、東京農工大学から福田信二先生と大学院生の厚東七海(コウウナミ)さん、山崎雄翔(ヤマザキユウ)さんの参加を得て無事に開催することが出来ました。まことにありがとうございました。感謝、多謝！！

1と2に関しては今回の自然観察たんけん隊に直接的に関わるお話でしたが、3の「農業と水資源と生態系」は福田先生の専門分野で、そのことにも若干触れていただきました。

ちなみに「魚の部」参加者15家族36人、「昆虫の部」11家族28人の計64人。さらに当会スタッフ8人、東京農工大6人、市職員3人を加えますと81人。たぶん、過去最高の参加者数だと思います。天候は曇り時々晴。

なお、「昆虫の部」の記事は3面に掲載しています。執筆者は東京農工大学2年生阿部晃樹(アベコウキ)さんです。



昆虫の  
形態に興味

## 「夏の昆虫いきものたんけん隊」から報告

東京農工大学2年  
阿部晃樹(アベコキ)

## 「虫」の美しさを感じてほしい

私は、東京農工大学の昆虫研究会に所属している阿部晃樹と申します。昨年度から昆虫観察会のスタッフとして参加させていただいています。私は特に昆虫の形態に興味があります。子供たちには観察を通して、虫の持つカッコよさや美しさを感じてもらえるように意識しています。

7月27日(土)9:00～11:00頃まで西府町緑地周辺で夏の昆虫いきもの探検隊が行われ、参加しました。その後、とても暑い中、冷房がきいた西府文化センター講堂での観察会では多種多様な生き物が観察されました。その中でもとくに夏を感じるセミやトンボが多く見られました。ここではセミとトンボについて紹介していこうと思います。

## セミ／触角の節に着目

まずは、セミについてです。左はよくみられるアブラゼミです。右はミンミンゼミです。アブラゼミは全身が全体的に茶色ですが、ミンミンゼミは翅が透明で胸に緑色が入っています。2種とも全く違うように見えますが幼虫の時は似ています。よく触角の節の間隔で見分けられています。きれいなセミの抜け殻がありましたら、触角の節に着目してみるといいでしょう。



アブラゼミ



ミンミンゼミ

## トンボ／翅の構造は風力発電等に応用



ミヤマアカネ



ネキトンボ

つぎに、トンボについてです。観察会では6種類のトンボが観察されましたが、ここでは2種類について紹介します。左はミヤマアカネです。翅の前端の紋(縁紋)付近に幅広い褐色の帯が見られます。そして胸の側面にはあまり模様がないことがこのトンボの特徴です。

続いて、右はネキトンボです。翅の付け根がオレンジ色です。胸側面には太く黒い筋が入った模様で、腹のとても鮮やかな赤色が目立ちます。トンボは種によって胸や翅の模様や色、さらに翅の外形や内部の多角形の形が違います。まだまだトンボは見られますので、もし捕まえられたら種による違いを楽しんでみてはどうでしょうか。

トンボの翅に関してはとても興味深く、4枚の翅が独立して動かせることができます。さらに独特の翅脈が強い骨組みを作っています。そして翅はまっすぐな平面ではなく、凸凹しています。これらの構造により、ホバリングや急旋回、高速飛行などができます。最近トンボの翅の構造は風力発電など多方面に応用されています。

街の近くの緑地にもたくさんの虫が棲んでいて、それぞれが違った特徴を持っています。この観察会を通して、沢山の虫やその特徴を紹介できて、うれしく思います。

## 花壇づくり 「学童クラブ児童」と西府町緑地で活動

田中香代子

2017年4月13日、西府町緑地内の縦3m横12mの長方形の地で花壇づくり活動を始めました。まず浅田さん、鈴木潔さん、田中の3名で硬い土を掘り起こしヒマワリの種を蒔き、数日後に鈴木潔さんがミニヒマワリの苗を植えたのがスタートでした。その後、(故)設楽さん、金田さんたち会員も加わり腐葉土を入れて耕し、春先や、夏の終わりにそれぞれの花の種を蒔き、今ではヒマワリ、アサガオ、ユリ、カラナデシコ、フジバカマ、ススキ、ハギ、コスモス、菜の花、スイセン等々一年中花を絶やすことなく活動を続け、近くの方々から「いつも楽しみにしています」とお声かけをいただいております。なお、花壇横にバイオネットを作り、落ち葉や花がらなどから腐葉土を作る試みも行っています。



2024年4月から、府中市第五小学校学童クラブ(3年生)児童と一緒に花壇づくりを始めました。活動時間は、毎月の第2木曜日午後3時30分～4時30分。児童との土いじりは、大いに楽しみとなりました。

活動は以下の通りです。

- ・4月11日 児童11名参加 ジニアの種まき
- ・5月9日 児童9名参加 菜の花の種を採取後ミニヒマワリの種まき
- ・6月13日 児童11名参加 コスモスの苗の植え替え
- ・7月11日 児童13名参加 花の名札付け、花壇の雑草取り
- ・9月12日 児童6名参加 ジニアとススキを学童クラブに飾る

興味を持って積極的に参加している児童の姿は我々にとって嬉しい限りです。



①②シヨワロで水まきの指導をする田中(右端)と一緒にジニアの花摘み(田中は左端)



第2回講座

# 自然体験学習(昆虫観察)

佐藤智恵子

2024年6月1日(土)9:30～11:30に開催されました。都立府中の森公園サービスセンター前に集合。5月末に台風第1号が接近し開催が危ぶまれましたが、進路がそれて無事に開催できよかったです。天候は曇り時々晴れで、暑すぎずよい探索日和となりました。

参加者は児童16人、保護者15人。府中市職員は柳下環境政策課長、町田さんの2人。東京農工大昆虫研究会は小池さん、阿部さん、加賀美さんの3人。当会は浅田、金田、倉町、村崎、佐藤の5人の合計41人。キャンセルもなく、全員集合。

### ハチに遭遇した時の対処法

サービスセンター前の池にはカルガモの親子がいて、アメンボとトンボも飛来していました。まず最初に、参加者にむけて、スズメバチ等が近くに飛んできた場合の正しい対応について昆虫研究会の方に注意喚起していただきました。

飛んでいるハチに遭遇しても、慌てて手で払ったりするのはNGで、動かずにハチが通り過ぎていくのをしっかり待ってゆっくり立ち去るのがよいとのことでした。

### 武蔵野の森は土がゆたか

その後、植物観察と昆虫観察の2班に分かれ、昆虫観察班はサービスセンターから武蔵野の森へ虫を探しながら歩きました。私は昆虫観察班を担当していましたので、ここでは昆虫観察の報告を行います。



発見した虫について昆虫研究会の方の説明を聞く参加者

植え込みのアジサイなどにも、テントウムシ、ハムシ、ハチやアリ、カメムシなど色々な小さな虫たちがおり、発見した虫は東京農工大昆虫研究会の方がすぐにどんな虫なのか生態なども詳しく教えてくれるので、あちこちから「先生！」「先生！これなんですか？」と元気な声上がり、子ども達も小さな虫にも大変興味を持ち、探索していました。

ふだん、通り過ぎてしまう植え込みも、立ち止まって観察すると様々な種類の小さな虫たちが活動しているのを知ることができました。武蔵野の森エリアは、ふかふかの腐葉土でミズノのフン塚やチャバネゴキブリ、カブトムシの幼虫など落ち葉を解体する虫がたくさんおり、土の豊かさを感じました。



ふだん、何気なく見ている植え込みにも様々な虫がいる

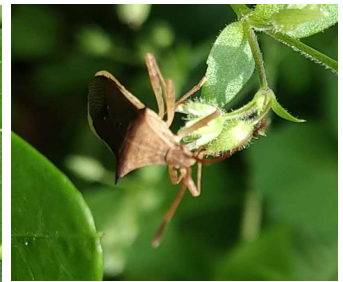
### 昆虫等35種を見つける

曇りがちの天候のせいか蝶や蜂などの飛んでいる虫が少なく、バッタ類を見ていないと思い探しましたが1種もみられませんでした。昆虫は8類34種、節足動物1種を発見しました(下に詳細)。特に、昆虫研究会の方々がたくさんのアリを判別してくれたので、色々な種類が生息していることがわかり驚きました。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| モンシロチョウ     | トビロシワアリ     |
| スジグロシロチョウ   | トビロケアリ      |
| ガの一種        | ルリチュウレンジ    |
| ナナホシテントウ    | アブの一種       |
| ニジュウヤホシテントウ | ガガンボの一種     |
| カブトムシ幼虫     | アメンボ        |
| ヒメオビオオキノコ   | アオバハゴロモ幼虫   |
| クロウリハムシ(写真) | ヨコヅナサシガメ    |
| セアカヒラタゴミムシ  | シマサシガメ      |
| タコゾウムシ類     | キマダラカメムシ    |
| クロオオアリ女王    | カメムシの一種(写真) |
| クロヤマアリ      | カメムシの一種の卵   |
| ヒメアリ        | シオカラトンボ     |
| ヨツボシオオアリ    | ショウジョウトンボ   |
| アミメアリ       | ヒゲジロハサミムシ   |
| キイロシリアゲアリ   | チャバネゴキブリ    |
| ハリブシリアゲアリ   | オカダンゴムシ     |
| オオハリアリ      | 計35種        |



クロウリハムシ



カメムシの一種

### 最後に、植物観察班と合流

植物観察班は、6種類の形の葉を捜し、6色の色の葉を捜し、目隠しをして木に触って、目隠しをといて触った木がどれかを探す体験をしたとのことでした。

途中、転んだりした子もいましたが、大事にいたらず無事に終了できました。



感謝する日々

## 援農ボランティア、はや17年

柿本正夫

## 援農ボランティアとは？

「府中かんきょう市民の会」が、環境を守るための活動の一環として援農ボランティア活動を開始したのは2003年府中市の援農ボランティア募集の応募にさかのぼり、21年間続いています。

私が援農ボランティアを始めたのは2007年ですから以降17年、最古参になります。自分の家の庭の雑草取りすらできず家内に苦情を言われているのによく続いているなど自分でも感心します。

当会入会のきっかけは援農ボランティアでした。私が援農ボランティアを知ったのは社会福祉協議会主催の体験型ボランティア講座でした。子供科学体験、介護、援農等複数のボランティア紹介があり、興味があるボランティアを体験します。

初めての援農ボランティアは押立町のIさん宅でボランティア講座受講者4名、かんきょう市民の会の援農ボランティア先輩3名と一緒にしました。経験のない農作業でできるか不安でしたがIさんご夫妻、諸先輩の優しい指導、気配りで無事2時間の作業をやり終えることができました。2時間の作業は大変でしたが、居心地がよかったこともあり援農ボランティアを継続することを決め、同時に当会に入会しました。

援農ボランティアの作業時間は午前9時から11時まで2時間。作業内容は雑草取り、収穫後の後片付けなど単純な作業が大半ですが時には種まき、苗の定植等野菜の栽培には重要な作業も担当します。収穫作業は収穫タイミング、収穫時間(早朝)の関係もあり担当することはありません。

現在、援農ボランティア活動者は15名。4～7名が1組になり2軒の農家に月に1～4回交代で参加します。援農ボランティアに参加するメリットは、専業農家の農作業を通年して間近に見ることができ、生きた知識を学ぶことができる点です。家庭菜園を楽しまれている方も参考になります。

## 17年間の出来事

この間、援農ボランティアを受け入れていただいたIさん夫妻、Tさん夫妻が亡くなりました。Iさん宅は息子さんと時々手伝いに来ていた当時学生のお孫さんが後を継いでいます。毎年秋は収穫祭と称して各農園主が回り持ちで農園主の庭先でバーベキューを行い、農園主も一緒に懇親を深めていました。

レンゲまつり(2001年～15年)と連携して各農園主から朝どれ新鮮野菜を供出していただき、直売所を設営、来場者に喜ばれました。

2008年にはTさんから生産緑地の一部を貸与いただき①循環型農業をめざす、②共同作業で種まきから収穫までを体験するを主旨に「畑の学校」を開校、自分たちで野菜作りを楽しむことができました。また、同年は当会の10周年にもあたり、借りた一画100坪を利用してそばを栽培しました。そばの開花を楽しみ、収穫、手摘み、収穫したそばを使ってそば打ち体験望年会開催、大いに盛り上がりました。

「畑の学校」は2008年から8年間運営しました。その土地はTさんのご逝去後、住宅街に変貌しました。

2019年には、JAマインズと協働で援農ボランティア土壌拡大を目的に400㎡の土地を借用し「農園塾」を開設しました。援農ボランティアメンバーはじめ当会メンバーの15人で個人区画、共同区画を設定し野菜づくりを楽しんでいます。2023年からは、収穫物の一部を「こども食堂」にも提供し喜ばれています。



④ブロッコリー畑 ⑤こども食堂から送られてきたお礼の夏野菜モリモリメニュー

## 援農ボランティアでの出会い

援農ボランティアを通していろんな人との出会いがありセカンドライフを豊かにしていただきました。

①海外サイクリングのTさん。Tさんを師匠に2008年海外サイクリング塾を開校、4年にわたりサイクリングのいろはを教えていただきました。Tさんはアイスランド一周をスタートにシルクロード、シチリア島、キューバ等々海外サイクリングを楽しんでいます。その間月2回の練習日があり走行距離10,000km以上走行し、サイクリング技術と体力強化を図りました。私は残念ながら海外挑戦は適いませんでしたが、館山一泊2日、寸又峡2泊3日輪行、三島～箱根～川崎箱根駅伝復路走行は思い出に残るサイクリングでした。サイクリングは足腰強化ができ今に繋がっています。

②釣り堀体験もよい思い出です。援農ボランティア仲間Mさんが鬼怒川で釣り堀を経営しており、援農ボランティア仲間数人で、鬼怒川遠征、釣り、バーベキューを楽しみました。

③2016年ジョギングが趣味の3人が加わり主力メンバーとして活躍しています。若い3人に引っ張られて農作業中は「健康」を話題にもり上がっています。去年は3人の口車に乗り猛暑の小布施ハーフマラソンに無謀にも挑戦しました。制限時間5時間に対しぎりぎり4時間59分で完走したのもよい思い出です。

④私の今の楽しみはゴルフです。社会人時代の会社の仲間とのゴルフに加えて、援農ボランティアで知り合った仲間、ゴルフ友だちとラウンドする機会に恵まれています。週3回の農作業(援農ボランティア1、家庭菜園2)で体力維持に努め、週1回のゴルフを楽しみに日々過ごしています。援農ボランティアに出会ったことに感謝する日々です。

最後になりましたが、当会の援農ボランティア会員を募集しております。野菜作り、援農ボランティアに興味がある方は柿本(Tel.090-5397-3589)までご連絡ください。



府中かんきょう市民の会  
初代表

## 横山永望さん追悼2題

## 竹内 章(元理事長 現相談役)

自然は祖先から譲り受けたものでなく、子孫から借りているものだ (アメリカンインディアン の 言い伝え)

2024年6月16日、「府中かんきょう市民の会」の初代表を務めた「横山 永望(ナガモチ)さん」がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。95歳でした。

横山さんは、1999年10月に施行された「府中市環境基本条例」の素案を検討するための公募市民に応募された「検討協議会」メンバーの有志10数人で「環境問題懇談会(仮称)」という団体を創設され代表を努めていました。

「環境問題懇談会(仮称)」は「府中かんきょう市民の会」の前身(2000年4月に名称変更)であり、横山さんは当会の初代表です。代表就任中は、「府中市環境の策定にもご活躍いただきました。2006年4月に大崎さんが第二代目の代表に就任されるまでの7年間の間、当会の代表として府中市の環境行政計画への提言や市の各種協議会や委員会メンバーにも就任され、市の環境行政の充実に多大な貢献をされました(7面右上写真参照)。

さらに、ご自宅が浅間山の近くにあったためか、浅間山のムサシノキスゲやキンラン、ギンランの保護にも熱心に取り組み、府中市全体の自然環境保護に大変ご活躍されました。

2001年7月、当会の会報誌が発行された創刊号にも「創刊号発刊に思う」と題して、次のようなメッセージを寄稿されています。

【二十一世紀は「環境の世紀」と言われています。この時代に私たちの「府中かんきょう市民の会」の会報が発行できることは誠に意義深く、編集委員や会員の皆さんの尽力の賜物です。会が発足して2年余り、それぞれの分野に優秀な会員が集まり、それぞれの得意分野を生かして活躍する等、行政との協働が出来るような力量を付けて来ました。今の私の願いは、会員数が増えることで更に活動分野を広げ、小中学校の環境教育の場に会員を講師として派遣出来れば良いなと思っています】

そして、最後に私が環境問題に関わっている原点は、次の更に次の世代への思いとして、「自然は祖先から譲り受けたものでなく、子孫から借りているものだ」という言葉を以前聞いた事があります。この意味を幅広く捉え、自然環境を大切にすることを当会の共通認識にしたいと思っています。

以上ですが、横山さんの思いを、これからも大切に引き継いで参りたいと思います。横山さん、本当に長い間お世話になりました。

合掌



## 浅田多津子(第7代現理事長)

行政のパートナーとして力量をつけてきた

故人との最初の出会い、私は30歳代後半でした。1995年度第9回府中市女性フォーラム(現在の男女共同参画フォーラム)実行委員会での同メンバーでした。実母同様の年齢差の故人とよく意見を言い合ったことを思い出します。真摯な語り口から出る発言はいつも私と同心でした。

当会初代表として創立時に尽力され、2003年に策定された「第一次府中市環境基本計画」以前には「府中市環境基本計画素案検討協議会」メンバーに参画されるなど、市民のための市民の計画をと、当会会員と共に邁進してこられたと聞いています。

当時、故人が言われていた「Think Globally & Act Locally」、また「行政のパートナーとして協働できる団体を目指そう!」等、会員の熱き想いを束ねる代表でした。

その頃私は別団体の福祉NPO法人の理事長で、2006年頃には府中駅前グリーンプラザ地下にて「市民活動推進連絡会」(仮)で第四代目理事長(現相談役・竹内章氏)と会議を共にすることがあり、協働を目指し次世代への広がり努力する団体だと感じていました。

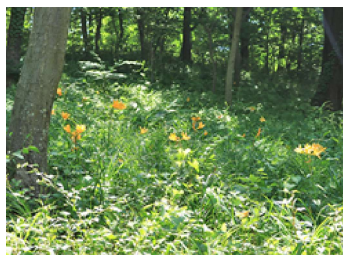
2007年「府中市地域別まちづくり方針市民検討会」にも参画され、高層マンション建設と景観、府中基地跡地利用についても意見されるなど、当会定例会で情報交換や市長宛て意見書の提出にも多々係られました。

2015年、当会で第五小学校環境学習を始めた頃には「環境学習を進め広げる必要がある」と定例会時に多摩川の魚や野草の資料を何冊も私にくれたことがありました。お話好きで学び合うことを忘れない故人で、数々の発言は私の心の中に今も響いています。

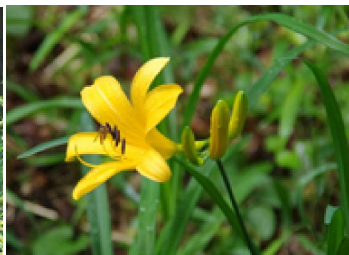
ここ数年間は休会され、ご逝去される3か月前には故人が愛した浅間山の「キスゲが咲く頃には伺いたい」と電話で約束したものの果たせないままになってしまいましたが、最後のお別れには枕花をお供えし、出会った頃からの30年間の感謝の気持ちとバトンを受け取ったことの報告ができました。心からご冥福をお祈りします。

これからも歩む 故人横山 永望氏と共に!

## 横山さんを偲ぶコーナー



故人が愛した府中市の浅間山(標高79.6m)



ムサシノキスゲ/世界で浅間山にしか自生せず





市政への提言(2003.1.8市長室) / 左から会員の大崎、横山、竹内(環境審議会委員3名)と現当会顧問の東京農工大学名誉教授小倉紀雄(当時、環境審議会会長)、野口忠直市長(当時)

会報「創刊号(2001年7月11日)」。創刊号は題字と大見出しが手書き。発行責任者は横山さん



2016年4月定例会後の感謝の集い。前列右から2人目横山さん



第1回レングেমまつり(2001年4月)の創刊号に記事、押立体育館にて。右端が横山さん



近影

心肺蘇生法& 熱中症対策等

# 救急救命講習会

金田邦男

「あなたは、倒れている人がいて、助けようとするとき、まず何をしますか？」

正解は「自分の安全の確認」

上記が講師からの最初の問いかけである。当会では、6月12日(水)、6月定例会で、16名の会員が参加して3名の講師による『救急救命講習会』を行った。会場は中央文化センター第3会議室、時間は13:30~14:30。

野外活動が多い当会では、緊急時の対処に関心をもって来た。最近の救急法では「AED」が使われるが、野外では「AED」があるとは限らず救急車がくるまでの対処が重要と考え、今年は「心肺蘇生法(心臓マッサージ)」を学ぶことにした。さらに、近年の夏の暑さによる熱中症の増加に注目し、「熱中症対策(予防・応急処置)」を加えて『救急救命講習会』を府中消防署にお願いした。

## 肋骨を骨折しても「命」が大事

参加者を3グループに分け、それぞれに講師がつき、実際に人形での心臓マッサージを体験した。胸の中央に両手を重ねて置き、1分間に100回のペースで30回、5cm沈む程度に強く押しは、緩める。「AED」や救急車がくるまでこれを繰り返す。心臓は左側ではなくほぼ中央にある、たとえ骨折しても心臓を動かすことを優先する(法的にも問題ない)などのお話も聞いた。

熱中症は、睡眠・食事・水分摂取・当日の気象判断などで、ならないようにする。なった場合は、日陰で体を冷やし安静にする(意識のない時は救急車を呼ぶ)。初めて体験する会員はもちろん、過去に経験した会員にとっても有意義な時間であった。

文頭の問いに戻るが、私たちは意気込んで「意識の確認」「呼吸の確認」と答えたが、正解は「自分の安全の確認」だった。道路や傾斜地などの野外では特に重要なことで、対象者にも冷静に対処することができる。講習会で学んだことを使う機会がないことを祈る。



④会員による人形での心臓マッサージ体験  
⑤府中消防署職員による実演



### 高野律雄市長への 要望書提出

## 有機フッ素化合物(PFAS)等にかかる 市長要請／「市民の会」要請が実現

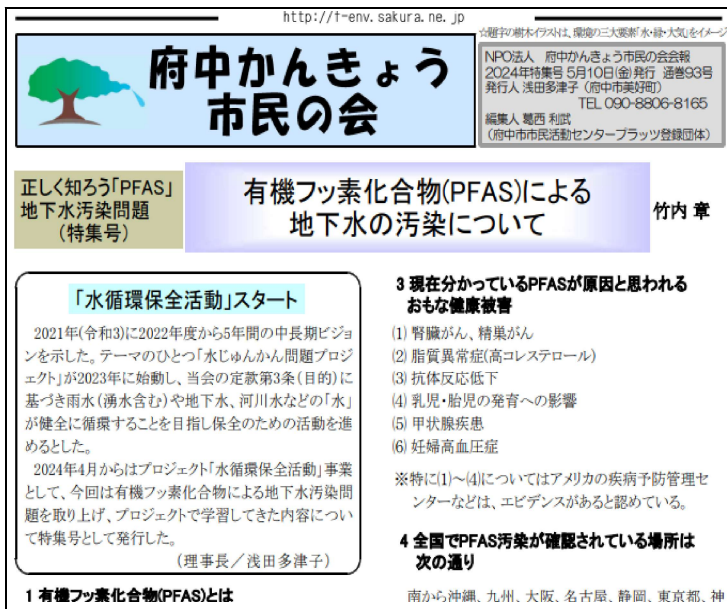
伊藤 久雄

#### 当会の「PFAS特集号」を読みましたか？

当会の特集号(通巻93号/5月10日)『有機フッ素化合物(PFAS)による地下水の汚染について』を読みましたか？「PFAS/ピーファス」に関しての知識や多摩地域における水道水のPFAS汚染状況、国(日本政府)・東京都・多摩地域の自治体の取り組み状況、府中市の取り組み、今後の国(日本政府)や自治体の取り組みなどについて、詳しく解説しています(⑤)に掲載)。

私たちの飲み水に関する重要な課題です。まだお読みでない方はぜひお読みください。会報は文化センターなど、市内各施設に配架しています。身近に会報を入手できない方は、当会までご連絡ください。また、ホームページにも掲載しています

PFAS特集号の1面上部



⑤高野市長と市長室にて面談(6月21日) ⑥高野市長  
⑦筆者の伊藤久雄 ⑧竹内章 ⑨浅田多津子 新理事長

を決定しました。内容は今年度も調査を継続すること。農家から希望がある場合は、農業用井戸についても調査対象とすること。同様に、西府町湧水についても当会が市からの委託事業として水質調査していることもあり、調査項目にPFASを加えること等3項目です。

6月21日には、市長室において高野市長と面談、要請内容について意見交換しました。この段階では市議会における質疑以上の話はできませんでしたが、市民団体としてPFASに関する要請を行ったのは当会が初めてだった由、意義ある要請だったと思います。

#### (2) 環境政策課との意見交換

環境政策課との意見交換の場でも、市長要請以上の具体的な内容はありませんでした。率直な意見交換ができました。その中で1つ、農業用井戸について報告します。

農業用井戸は、都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」(環境確保条例)に基づき、動力を用いるすべての揚水施設(家庭用井戸は300ワット超のもののみ)は揚水量等の報告が市に義務付けられていること。その報告に従って市が把握している農業用井戸は39基、うち災害時協力井戸は37基であることが分かりました。

#### 「市民の会」の要望が実現

8月30日に開会された府中市議会(第3階定例会)に補正予算が提案されました。この補正予算の中にPFASに関する水質調査予算が盛り込まれました。補正予算額は約400万円です。

補正の内容は、①昨年度に引き続き、市所有の井戸(9箇所)と新たに湧水(2箇所)の調査、②防災協力井戸(37箇所、希望者のみ)の調査です。

「市民の会」の要望が実現することになりました。

#### 最近の状況

「特集号」発行以降の最近の状況を報告します。

- ①アメリカの環境保護庁が2024年4月、「飲料水中のPFASに関する最大許容濃度(MCL)」を今後4ng/L(1リットル当たり4ナノグラム)改めると最終決定しましたが、いまのところ我が国に目標値見直しの動きはないこと。
- ②東京都が都内260カ所の地下水を対象にした2023年度調査結果を公表し、府中市においても260ng/Lと非常に高い数値があったこと。
- ③内閣府食品安全委員会が6月25日、PFASの一種であるPFOA(ピーフォア)について、健康影響(摂取量)の指標値として、20ng/kg体重/日が適当と判断したこと。などを上げることができます。③の健康影響(摂取量)の指標値も含めて、残念ながら国の動きは鈍い状況に変わりはありません。

#### 市長要請と環境政策課との意見交換

##### (1) 市長要請

市民の会は6月12日の定例会において、市長宛て「PFASに関する水質調査の継続などに関する要請書」